

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600331		
法人名	有限会社ナチュラル・ライフ		
事業所名	グループホーム宝寿	ユニット名	にじ
所在地	静岡県袋井市浅羽64-6		
自己評価作成日	平成29年12月6日	評価結果市町村受理日	平成30年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&lgvosyoCd=2276600331-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成29年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『尊厳のある、その人らしい、穏やか生活』をケア理念に掲げ、たとえ認知症になっても最後までその人らしく、家庭的環境の中で生活して行けるよう、常に相手の立場に立って考えられるように努めており、利用者や御家族様との関係作りも大切にしていきながら、個別支援が行えるように取り組んでいる。
また、地域の行事への参加やその他協力機関と連携体制も整備し、多面的は支援が行えるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園地帯の中に立つのどかな場所にある事業所である。周りに住宅が少ないせいか地域住民との交流はほとんどない。ゆったりと散歩をしたり、少し離れたコンビニエンスストアまで買い物に出かけることもある。自治会を通して行事に参加する機会もあり、認知症カフェへの参加も計画している。職員と利用者一人ひとりがゆったりと過ごせるように、いつも笑顔で傍にいる等の「関わり7原則」を作成して、わかりやすい言葉で職員への実践へとつなげている。エリア総括長は運営推進会議を活用して自治会や地域住民とのかかわりを増やせるようにしていきたいとの思いがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「尊厳のあるその人らしい穏やかな生活」という法人の理念を掲示し、常に確認し取り組んでいる。また、理念を細分化し、より具体的に「関わり7原則」を設け実践している。	法人理念を掲示して常に確認し、共有できるように取り組んでいる。職員に周知し、実践できるように安心できる人になる等の「関わり7原則」を作成し、具体的な取り組みを進めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会に加入し、地域の行事に参加している。お散歩に出掛けた時など、地域の方とあいさつを交わしている。地域の認知症カフェへの参加も検討している。	自治会には加入している。祭りなどの行事には協力体制が整えられているが、立地状況から自治防災や地域住民との交流が少なく、挨拶を交わす程度に終わっている。認知症カフェへの参加も検討している。	事業所の立地状況から周りに住宅が少ない為、住民との交流がない。災害等の非常事態等も考慮に入れ、地域住民との交流がスムーズにいくような方法の検討を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に優しい地域をつくる会に参加し地域の方々に認知症の理解が深まるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、宝寿での生活の様子、情報交換(市内の現状)、災害時の動きなど話し合いサービスの質の向上に活かせるように努めている。	定期的で開催されている。運営推進会議で出された意見での取り組みが生かせるよう、消防署や地域防災関係者に会議への参加を働きかけている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者様と連絡を密に取ることで、情報交換(空所状況等)・アドバイスなどを受け、協力関係を築けるよう取り組んでいる。	市独自の取り組みで、年一回地域密着型サービスの事業所を集めて交流会が行われている。他事業所や行政と空き室状況等の情報交換をして、積極的に関係作りに取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしており、拘束に繋がるといふような行為がないようスタッフ一同日頃のケアの際心がけるよう努めている。夜間のみ防犯上の理由から施錠している。	日頃のケアでスピーチロックが行われないように、強い口調にならないように注意をしている。「なぜ」行っってはいけないのかを繰り返し職員に説明している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアの中で、着替えや入浴時に身体にあざや傷がないか身体の様子を確認すると共に、言葉使いなど職員間で注意し合えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学ぶように施設内研修を行ってきたが、職員のすべてが理解しているかはわからない。実際に後見人制度を使用しながら学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な時間を取った上で説明し、理解して頂けるように努めている。また、家族からの質問事項・不明点等は随時説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡を通し入居者様の様子を伝えながら、ご家族の要望・意見などを聞くように努めている。家族からの意見等は申し送りや、連絡ノートで情報を共有している。	家族から脳トレや手足を動かすことを導入して欲しいとの申し出もあるが、本人のできることから行うようにしている。意見や要望があった時には、その都度職員同士で話し合い、書面に残すようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の様子の変化をなるべく早くキャッチできるように普段から声をかけたり、いつでも意見や提案が出来る環境を作るよう職員会議を行っている。必要に応じて個人面談の時間を設けている。	個人面談はエリア統括者が年3回定期的に行っている。台所の改装を行ったり、スライディングボードの導入があったりと、その都度職員から上がってきた意見を検討して改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算による目標管理シートを基に本人が掲げた目標に対する取り組み姿勢、現場業務における態度、指示した内容の理解度や達成度の経過を追いながら把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や力量に合った外部・内部研修を行っている。社内のスキルアップ手当を使用して資格取得が出来るよう進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域では「認知症にやさしい地域を創る会」等に参加し交流をしている。今後も外部研修に参加しサービスの向上に努めていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人との面談を行っている。その際、家人やサービス提供者に協力していただき、ご本人が安心して話せるよう環境を作り、要望等をきくようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の際、ご家族様の想い・要望等、今まで困っていたことなど細かな情報も聞き取るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に問題となっている部分を見極め、ケアマネと連携を取り、ご本人にとって良いサービスが受けられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活をする中で、入居者様から学ぶ姿勢を持ち、お互いに支える関係作りを築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との連絡を密にし、職員と共に入居者様を支える関係作りを努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や兄弟、知人に面会に来ていただいたり、ご家族様の協力や職員と馴染みの場所へ外出支援している。	利用者と家族が交流できる機会を設けるため、事業所の行事である忘年会や夏祭りに家族を招待することで、交流が活発になるような工夫を行っている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人一人の認知や身体レベル等を把握し職員が会話の架け橋やサポートし関わられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な場合には関係を継続してサービス終了後も相談窓口として適切な支援を行えるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から生活の中での希望を聞いたり、困難な場合はご家族様からこれまでの生活歴等情報をいただき、職員間で話し合い、本人の意向に沿えるように努めている。	日常生活のなかで職員が利用者の要望を聞き取り、聞き取った要望は個人カルテに記入し共有している。これにより個別で外出にかけなどの活動を行うようになった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴等の情報収集を行い、入居後もご家族様やご本人から情報を得るようにしている。以前のサービス利用の経過についてはケアマネと連携をとり情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調や心身の変化に目を傾け、変化を見逃さないように生活記録・ケース記録に残している。全職員が記録を見ることで現状把握に努めている。看護師・ケアマネと連携を取り多方面から情報も共有するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で、ご本人の表情や言動の状況把握に努め、今後の課題、家族の意向を聞き取り職員からも意見やアイデアを出し合いながら計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。	事業所独自のモニタリングシートを作成し、計画作成担当者だけでなく他の職員が記入する事で多角的な情報の共有を目指している。作成した計画は、不定期で開催する職員会議で共有を行っている。	作成した介護計画を共有する場である職員会議の開催が不定期となっている。定期的な計画の共有と実践に、多くの職員の意見が反映される仕組みが確立することを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に表情や言動など細かな事まで情報を記録し、職員間で共有できるようにしている。自社開発のシステムを導入し今後より介護計画等に活かせるよう取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の想いや御家族の想いをくみ取り、常に寄り添って安心した生活が送れるよう施設内のみにとらわれず多方面から意見やアイデアを出し対応出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りや事業所間交流・職場体験などを行い、地域の方と交流が出来るように取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診に来ていただいている。かかりつけ医と連携を図りながら適切な医療が受けられるようにしている。総合病院への受診・入院に関してはあらかじめ希望を伺っている。	殆どの利用者が提携医の往診を受けているが、提携医以外の皮膚科や歯科の往診を受ける利用者もいる。他の医院に受診を行う場合は基本的に家族が行い、必要な情報は手紙や電話・FAXを利用し医師との共有を図っている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル・皮膚状態・便秘等観察し、変化があれば必ず看護師に報告している。それにより看護師が状態を確認し必要に応じて処置やかかりつけ医に相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人の状況や今後予測できる状態について看護師やかかりつけ医と相談し、出来るだけ早く今までの生活が出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方について、入居時よりご家族様と話し合い、事業所にて出来ることや出来ないこと、方針を説明している。その段階に至った時、主治医、ご家族様と話し合いの場を設けている。	事業所での看取りを行う方針としている。対応マニュアルの充実は取り組み半ばではあるが、個別のケースに応じて看護師が介護職員に研修を実施し、さらに状況に応じて指示を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成すると共に看護師からの指導も取り組んでいる。事故後はなぜ起きてしまったのか、対策等を職員間で話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署の協力を得て通報・初期消火・避難訓練を行っている。地域との協力体制が必要と感じている為、今後協力体制が得られるように努める。夜間を想定した訓練の実施が今後の課題である。	訓練は地震や水害を被害想定として年3回実施している。避難や消防署への通報訓練を行い、今後は夜間想定訓練を計画している。地域との協力体制として利用者の避難場所の確保や訓練への参加を検討している	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや対応に気を付け、入居者様の自尊心を傷つけないような声掛けや誘導を心がけている。また一人で過ごす時間も大切にしている。	入居前に過ごしていた生活リズムを把握し、それに合わせて事業所での生活を検討する取り組みを行っている。また排泄の声掛けの際には、周囲に判らないよう声の大きさに配慮を行うなどの工夫がみられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で入居者様が決めていただけるようにその方が理解しやすい言葉かけや選択出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムやその日の体調や気分を考慮し、入居者様を中心とした生活が出来るように努めている。職員からも散歩や買い物へ誘うなどきっかけ作りにも努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様から入居者様の好みなどを詳しく聞き、その人らしい身だしなみが出来るように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中で好きな食べ物を聞いたり、季節・誕生日・行事のメニューにしたり、食事を楽しめるようにしている。食事作りを行う方、食器を拭く人当、個々の役割になっている。	調理師の資格を持った職員がメニューを作成している。正月には寿司、夏にはバーベキューなど、利用者の意見から季節行事を取り入れた食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を把握し、水分や食事が少ない時は、捕食をしたり、好きな飲み物を勧めたりして対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に応じた口腔ケアを行っている。歯科往診があり、口腔ケアの仕方を教わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムに合わせ声掛け、トイレ誘導をしている。トイレ時には、腹部マッサージを行い、排便しやすくなるよう支援している。	できる限りオムツを使用せずトイレで排泄を行う事を念頭に、個々のパターンを把握し適時排泄の声掛けを行っている。これにより入居後に失敗なく排泄が自立となったケースがある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜類を多くメニューに取り入れれたり、おやつ時に手作り寒天ゼリー、牛乳などを摂取するなどの工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は決めずにご本人の希望に合わせて入浴が出来るように努めている。	概ね10時～17時の間で利用者が入りたい時間に入浴できる体制となっている。歳時に応じて柚子湯などの変わり湯を提供し、利用者は好みのシャンプーを使用できる等の個別的な対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後からは、落ち着いた時間を過ごせるように配慮し、夜安心して休めるように心がけている。室温、照明にも気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果や副作用を職員が分かるように記録に綴じている。飲み忘れや配薬間違いなど無いように職員間で確認しながら行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の得意な事を活かし役割や楽しみが持てるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の生活の中で散歩や買い物に出かけられている。誕生日や本人の希望に合わせて外出したり楽しみを持ってもらえるように努めている。	事業所の庭で外気浴を行っている。日常的な散歩として事業所近隣の遊歩道を散歩コースとしているが、冬季は寒さのため行っていない。また初詣や花見・地域の祭りなどへの外出を行事として行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の状況に合わせ、御自分で管理できる方には所持していただいている。買い物の際にご自分で支払いが出来る方には行っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話をかけられるようにしたり、ご家族様からの電話の取次ぎをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事を取り入れたり、食材や花(花壇)等で季節感を感じられるよう環境作りをしている。	鍋料理など季節に合ったメニューや旬の食材を使うことで生活に季節感を取り入れている。共用部では木製で統一感のある家具を使用している。また障子や白い壁紙を使用することで、事業所内が明るく過ごしやすい環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが一人になれる空間や他の方とも話をしたりして過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前には慣れ親しんだ物や家具を持ち込んでいただけるように伝え、ご本人が安心して暮らせるような部屋作りに努めている。	居室は共用部と同様に、障子や白い壁紙を使用し、明るい空間となるよう配慮されている。入居時は利用者の自宅を訪問し、利用者が落ち着けるような家具の持ち込みをアドバイスする支援を行っている。	
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人に合わせた生活が送れるように、目印や張り紙を付けたり、各居室には表札を設け自分の部屋が合わるようにしている。また、分かりやすい段差や手すりも設置している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600331		
法人名	有限会社ナチュラル・ライフ		
事業所名	グループホーム宝寿	ユニット名	ひかり
所在地	静岡県袋井市浅羽64-6		
自己評価作成日	平成29年12月5日	評価結果市町村受理日	平成30年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail/2016_022_kani=true&lgvosyoCd=2276600331-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成29年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『尊厳のある、その人らしい、穏やか生活』をケア理念に掲げ、たとえ認知症になっても最後までその人らしく、家庭的環境の中で生活して行けるよう、常に相手の立場に立って考えられるように努めており、利用者や御家族様との関係作りも大切にしていきながら、個別支援が行えるように取り組んでいる。
また、地域の行事への参加やその他協力機関と連携体制も整備し、多面的な支援が行えるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「尊厳のあるその人らしい穏やかな生活」という法人の理念を掲示し、常に確認し取り組んでいる。また、理念を細分化し、より具体的にした「関わり7原則」を設け実践している。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会に加入し、地域の行事に参加している。お散歩に出掛けた時など、地域の方とあいさつを交わしている。地域の認知症カフェへの参加も検討している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に優しい地域をつくる会に参加し地域の方々に認知症の理解が深まるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、宝寿での生活の様子、情報交換(市内の現状)、災害時の動きなど話し合いサービスの質の向上に活かせるように努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者様と連絡を密に取ることで、情報交換(空所状況等)・アドバイスなどを受け、協力関係を築けるよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしており、拘束に繋がるといような行為がないようスタッフ一同日頃のケアの際心がけるよう努めている。夜間のみ防犯上の理由から施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアの中で、着替えや入浴時に身体にあざや傷がないか身体の様子を確認すると共に、言葉使いなど職員間で注意し合えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学ぶように施設内研修を行ってきたが、職員のすべてが理解しているかはわからない。実際に後見人制度を使用しながら学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な時間を取った上で説明し、理解して頂けるように努めている。また、家族からの質問事項・不明点等は随時説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡を通し入居者様の様子を伝えながら、ご家族の要望・意見などを聞くように努めている。家族からの意見等は申し送りや、連絡ノートで情報を共有している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の様子の変化をなるべく早くキャッチできるように普段から声をかけたり、いつでも意見や提案が出来る環境を作るよう職員会議を行っている。必要に応じて個人面談の時間を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算による目標管理シートを基に本人が掲げた目標に対しての取り組み姿勢、現場業務における態度、指示した内容の理解度や達成度の経過を追いながら把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や力量に合った外部・内部研修を行っている。社内のスキルアップ手当を使用して資格取得が出来るよう進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域では「認知症にやさしい地域を創る会」等に参加し交流をしている。今後も外部研修に参加しサービスの向上に努めていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人との面談を行っている。その際、家人やサービス提供者に協力していただき、ご本人が安心して話せるよう環境を作り、要望等をきくようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の際、ご家族様の想い・要望等、今まで困っていたことなど細かな情報も聞き取るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に問題となっている部分を見極め、ケアマネと連携を取り、ご本人にとって良いサービスが受けれるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活をする中で、入居者様から学ぶ姿勢を持ち、お互いに支える関係作りを築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との連絡を密にし、職員と共に入居者様を支える関係作りを努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や兄弟、知人に面会に来ていただいたり、ご家族様の協力や職員と馴染みの場所へ外出支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人一人の認知や身体レベル等を把握し職員が会話の架け橋やサポートし関わられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な場合には関係を継続してサービス終了後も相談窓口として適切な支援を行えるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から生活の中での希望を聞いたり、困難な場合はご家族様からこれまでの生活歴等情報をいただき、職員間で話し合い、本人の意向に沿えるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴等の情報収集を行い、入居後もご家族様やご本人から情報を得るようにしている。以前のサービス利用の経過についてはケアマネと連携をとり情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調や心身の変化に目を傾け、変化を見逃さないように生活記録・ケース記録に残している。全職員が記録を見ることで現状把握に努めている。看護師・ケアマネと連携を取り多方面から情報も共有するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で、ご本人の表情や言動の状況把握に努め、今後の課題、家族の意向を聞き取り職員からも意見やアイデアを出し合いながら計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に表情や言動など細かな事まで情報を記録し、職員間で共有できるようにしている。自社開発のシステムを導入し今後より介護計画等に活かせるよう取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の想いや御家族の想いをくみ取り、常に寄り添って安心した生活が送れるよう施設内のみにとらわれず多方面から意見やアイデアを出し対応出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りや事業所間交流・職場体験等などを行い、地域の方と交流が出来るように取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診に来ていただいている。かかりつけ医と連携を図りながら適切な医療が受けられるようにしている。総合病院への受診・入院に関してはあらかじめ希望を伺っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル・皮膚状態・便秘等観察し、変化があれば必ず看護師に報告している。それにより看護師が状態を確認し必要に応じて処置やかかりつけ医に相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人の状況や今後予測できる状態について看護師やかかりつけ医と相談し、出来るだけ早く今までの生活が出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方について、入居時よりご家族様と話し合い、事業所にて出来ることや出来ないこと、方針を説明している。その段階に至った時、主治医、ご家族様と話し合いの場を設けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成すると共に看護師からの指導も取り組んでいる。事故後はなぜ起きてしまったのか、対策等を職員間で話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署の協力を得て通報・初期消火・避難訓練を行っている。地域との協力体制が必要と感じている為、今後協力体制が得られるように努める。夜間を想定した訓練の実施が今後の課題である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや対応に気を付け、入居者様の自尊心を傷付けないような声掛けや誘導を心がけている。また一人で過ごす時間も大切にしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で入居者様が決めていただけるようにその方が理解しやすい言葉かけや選択出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムやその日の体調や気分を考慮し、入居者様を中心とした生活が出来るように努めている。職員からも散歩や買い物へ誘うなどきっかけ作りにも努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様から入居者様の好みなどを詳しく聞き、その人らしい身だしなみが出来るように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中で好きな食べ物を聞いたり、季節・誕生日・行事のメニューにしたり、食事を楽しめるようにしている。食事作りを行う方、食器を拭く人当、個々の役割になっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を把握し、水分や食事量が少ない時は、捕食をしたり、好きな飲み物を勧めたりして対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に応じた口腔ケアを行っている。歯科往診があり、口腔ケアの仕方を教わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムに合わせ声掛け、トイレ誘導をしている。トイレ時には、腹部マッサージを行い、排便しやすくなるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜類を多くメニューに取り入れたり、おやつ時に手作り寒天ゼリー、牛乳などを摂取するなどの工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は決めずにご本人の希望に合わせて入浴が出来るように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後からは、落ち着いた時間を過ごせるように配慮し、夜安心して休めるように心がけている。室温、照明にも気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果や副作用を職員が分かるように記録に綴じている。飲み忘れや配薬間違いなど無いように職員間で確認しながら行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の得意な事を活かし役割や楽しみが持てるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の生活の中で散歩や買い物に出かけている。誕生日や本人の希望に合わせて外したり楽しみを持ってもらえるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の状況に合わせ、御自分で管理できる方には所持していただいている。買い物の際にご自分で支払いが出来る方には行っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話をかけられるようにしたり、ご家族様からの電話の取次ぎをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事を取り入れたり、食材や花(花壇)等で季節感を感じられるよう環境作りをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが一人になれる空間や他の方とも話をしたりして過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前には慣れ親しんだ物や家具を持ち込んでいただけるように伝え、ご本人が安心して暮らせるような部屋作りに努めている。		
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人に合わせた生活が送れるように、目印や張り紙を付けたり、各居室には表札を設け自分の部屋が合わるようにしている。また、分かりやすい段差や手すりも設置している。		